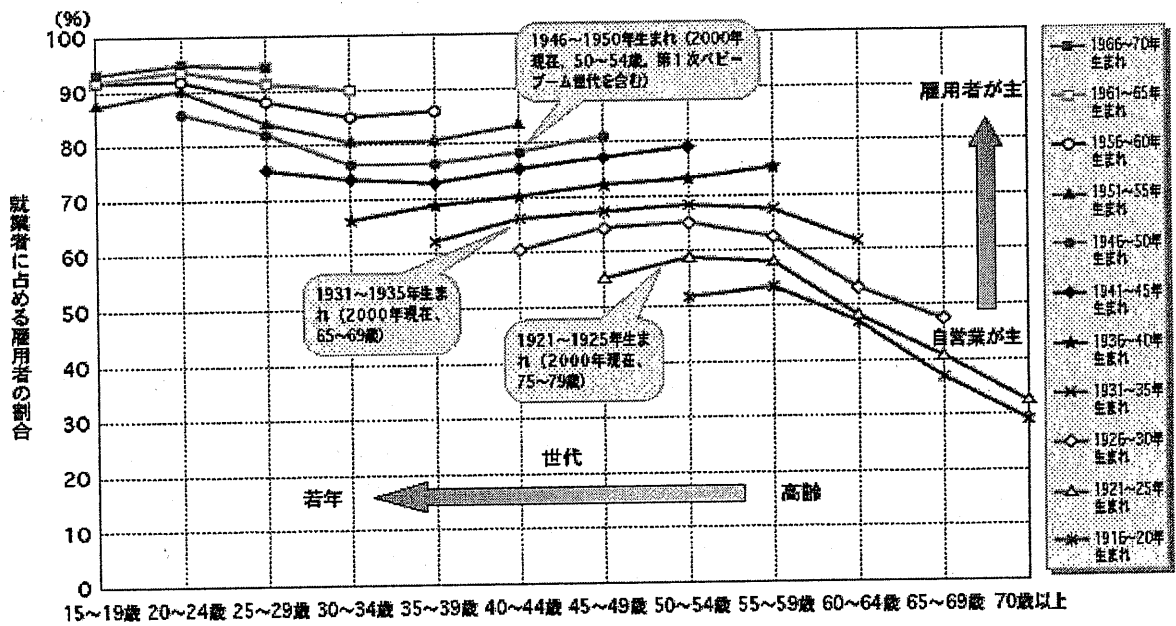
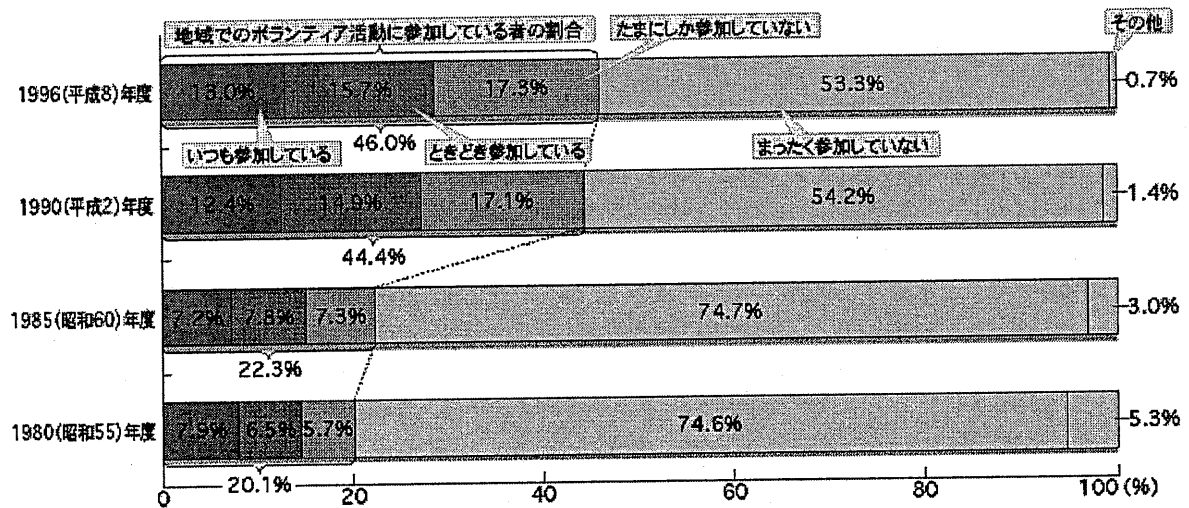


グラフ3 同時出生集団別にみた就業者の雇用者割合の推移



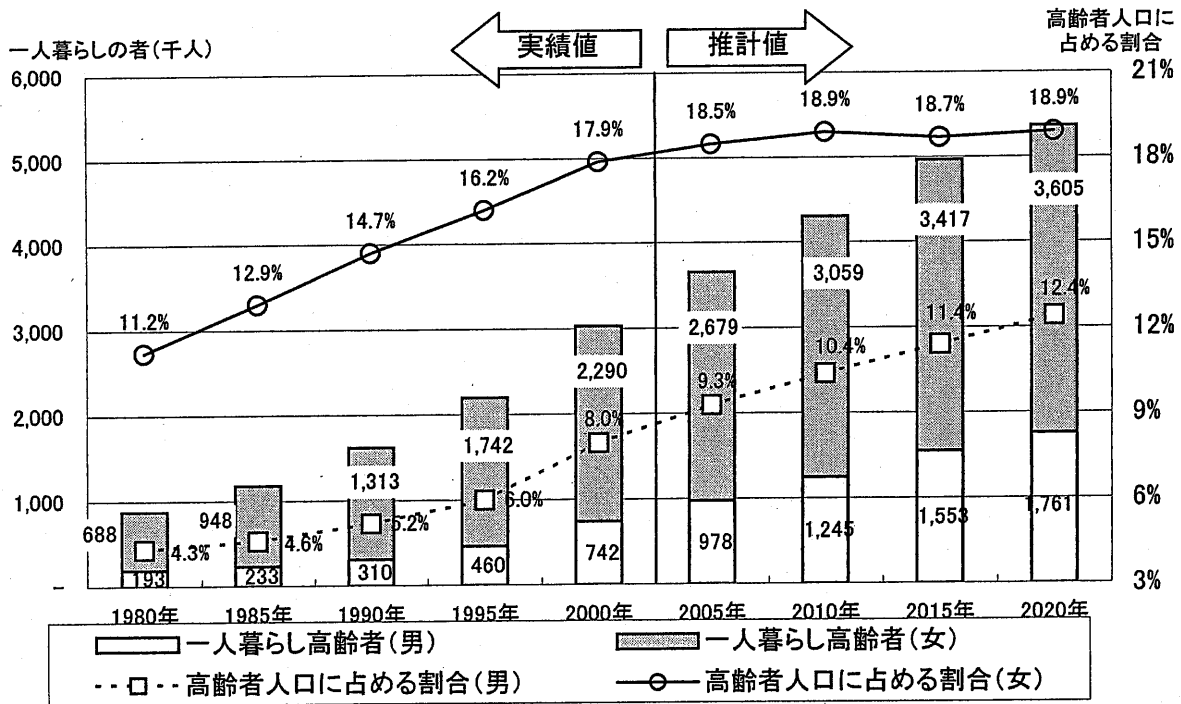
資料：総務庁統計局「労働力調査」

グラフ4 60歳以上の者の地域でのボランティア活動



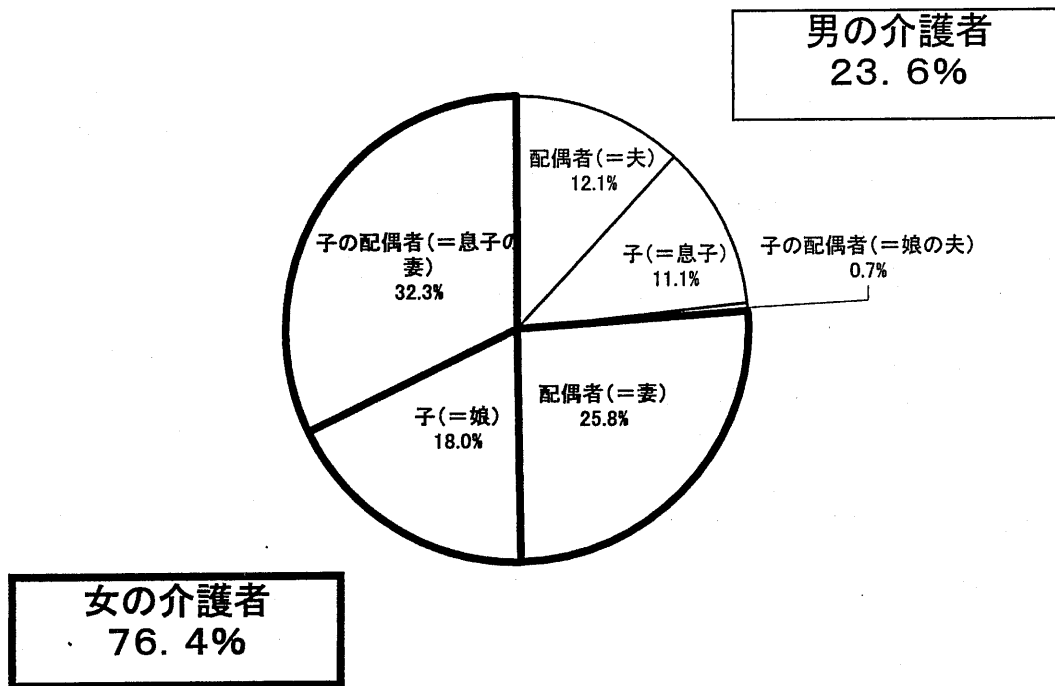
資料：総務庁「高齢者の生活と意識 - 第4回国際比較調査結果報告 -」(1997(平成9)年4月)

グラフ5 一人暮らし高齢者数の推移



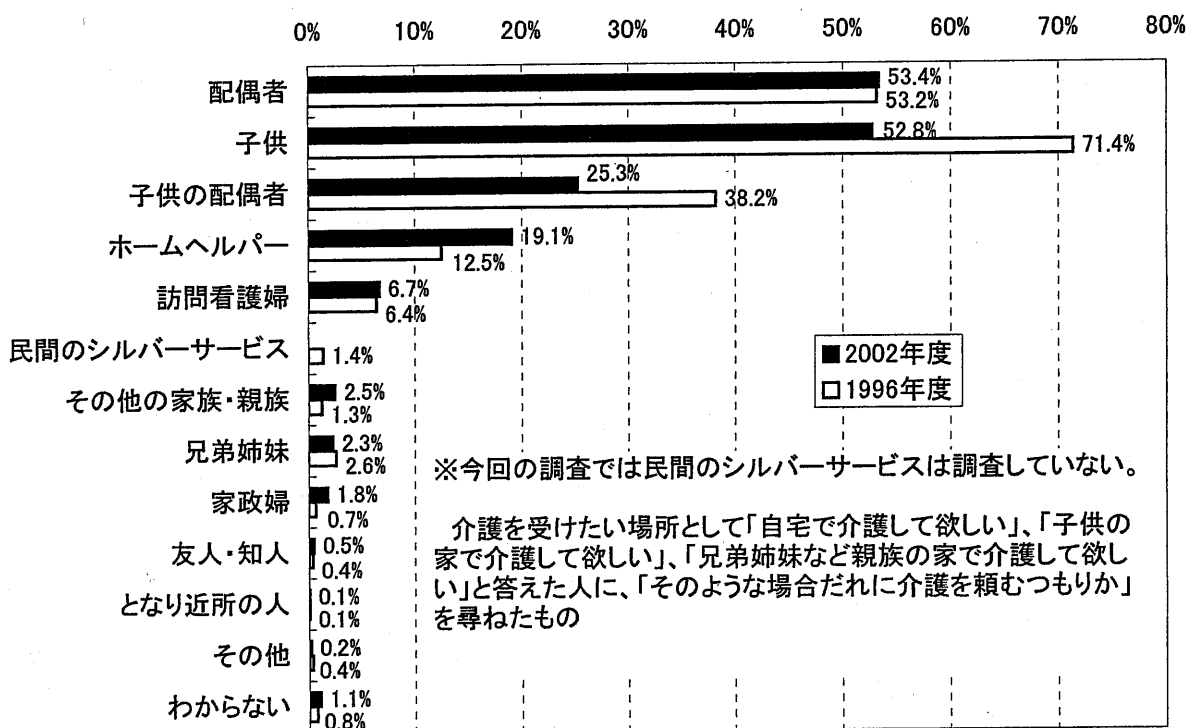
資料: 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」、「日本の将来推計人口」

グラフ6 要介護者からみた同居の主な介護者の続柄



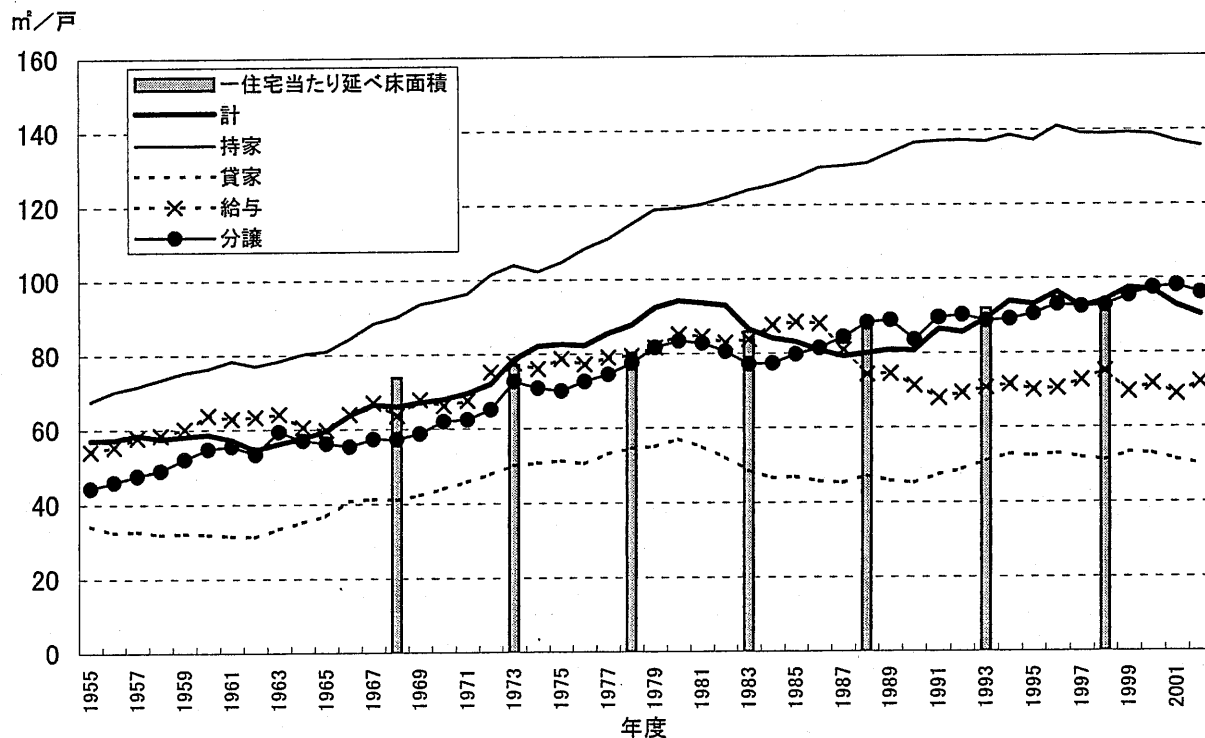
資料: 厚生労働省大臣官房統計情報部「平成13年国民生活基礎調査」より算出

グラフ7 介護を頼む相手



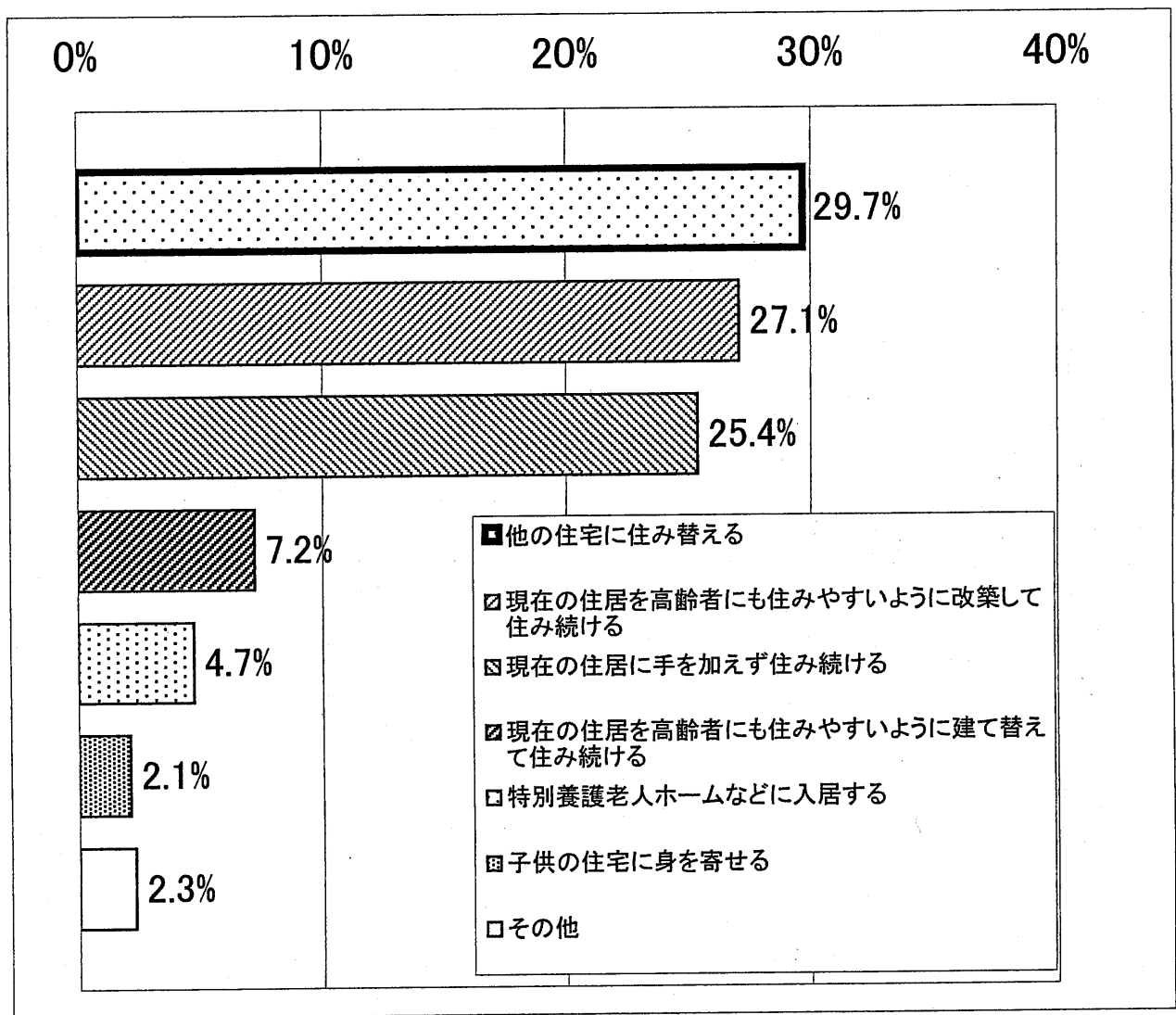
資料：内閣府政策統括官（総合企画調整担当）「高齢者の健康に関する意識調査結果」（平成15年5月）

グラフ8 拡大しつつある居住面積



資料：国土交通省「住宅着工統計」、総務省「住宅・土地統計調査」（一住宅当たり延べ床面積）

グラフ9 高齢期の居住場所として希望する住居の形態



調査対象: 大都市圏在住の40歳～64歳までの男女

資料: 国土交通省「高齢期の在宅居住を支援する環境整備のあり方に関する調査報告書」
(平成13年3月)

補論2 ユニットケアについて

1. この補論の趣旨

本論では、施設において個別ケアを実現するための手段であるユニットケアの趣旨について述べ、また、既存の特別養護老人ホームにおいてユニットケアを導入するための改修を行う場合に1ユニット分の定員を本体建物から減らして、その1ユニットはサテライト型の入所施設として街の中に整備することにより、施設の一部を小規模・多機能サービス拠点とし、人的・物的資源を在宅の高齢者にも提供できることについて述べた。

このように、ユニットケアは施設機能を地域へ展開させていくきっかけとなりうる。

とはいえ、まずは施設内でユニットケアを適切に行うことが重要である。「個別ケアを実現するための手段」というユニットケアの本質を理解し、適切に行うことにより、将来ユニットごとに地域へ展開していく際にも、地域の中で一人一人の個性や生活のリズムに沿ったケアを提供することができる。

しかし、ユニットケアに取り組み始めたばかりの施設では、「施設を仕切ること」「入所者を分けること」で目的を果たしたと考え、実際のケアは従来と変わらず集团的・画一的にケアを行っている事例もあると指摘されている。

形式的に入所者を少人数の集団に分けるだけでは、ユニットケアの目指す「個別ケア」は実現されない。ユニットケアが急速に広まりつつある中、ユニットケアの目指すものが何であるか、改めて確認しておきたい。

2. ユニットケアの目指すもの

(ユニットケアの原点)

1994(平成6)年、ある特別養護老人ホームの施設長が、数十人の高齢者が集団で食事を摂る光景に疑問を抱き、少人数の入所者と共に買い物をし、一緒に食事を作り、食べるという試みを始めた。そして「一緒に過ごす、ごく普通の家庭の食卓にこそ意味がある」ということに気づいた。